

## 地図をよむ

目的地に向かうとき、目標のものを探すとき、そして自分の現在地を知るためにかかせない「地図」を読み解くための本を紹介します。

1冊目は、羽田康祐/著『地図リテラシー入門』です。

地理の教科書やニュースでみかける「人口増加率」や「感染者数」など、特定の情報を強調して描かれる地図のことを主題図といいます。この本では、その主題図と一般的な地図の共通する内容に触れながら、地図についての仕組みや原則を学ぶことができます。主題図のように、結論をわかりやすく伝えることができる地図は、その分、作り手の意図に誘導されやすくなります。そこで、読み手側も地図の基本を学び、正確に読み解く力を身に着けるために「地図の教科書」としておすすめです。

2冊目は、杉浦貴美子/著『地図趣味。』です。

この本は地質図や航空図などの専門的な地図をはじめ、色合いや構成が魅力的な世界各地の地図がたくさん紹介されています。その中でも、イヌイットの漁師が自らの観察のみで作った地図は印象的です。動物のヒョウの皮に流木が括り付けられ、まるで、抽象絵画のようです。実際は過酷な環境の中、命がけで作られ、使用されてきました。このように、いつ、どのような目的で作られたかという機能的美しさも含めて地図を鑑賞し、味わう、新しい沼にはまってみてはいかがでしょうか？

3冊目は、吉玉サキ/著『方向音痴って、なおるんですか？』です。

地形マニアと街の中を巡ったり、脳科学者に相談して方向音痴のしくみを知り、迷子になる原因を探ってみたり、あの手この手を使って筆者が方向音痴の克服を目指します。果たして方向音痴は治るのでしょうか？その道のプロが教えてくれる“道に迷わないためのコツ”は、苦手意識に寄り添うアドバイスばかり。読み終わったときには心が軽くなり、散歩にでかけたくなるエッセイです。

図書館にはこの他にも、地図に関する本がたくさんあります。ぜひ図書館にお越しください。